

皆さんは「イタコの口寄せ」を知っていますか？

イタコといえば、亡くなった人の霊を呼び寄せて故人の言葉を伝える巫女のことです。先天的もしくは後天的に目が見えないか、弱視の女性の職業であったとされています。昭和40年代には300人もイタコが存在していましたが、今では数人となり、「絶滅危惧種」の職業とさえ言われています。

その舞台である日本三大霊場 恐山は、亡くなった人の霊が集まる霊場。「三途の川」から始まり、悪人は渡ることができないと言われている「太鼓橋」を渡り、「無間地獄」「金堀り地獄」「賭博地獄」など、136の、まさに“地獄”のような景色が広がる中、それらをめぐって、死者の成仏を願うのが、「恐山」のお参りの仕方です。しかし、先に進むと極楽浜と呼ばれる美しい湖が広がっており、とても静かで神秘的な風景に変わります。地獄と天国が混在しているような、この世のものとは思えない独特の地形に、死後の世界を思わずにはいられません。

「イタコの口寄せ」は、いつも行っているわけではなく、夏の恐山大祭と秋の恐山秋詣の期間に限定されています。期間中は、“死者の言葉”を求めて、大行列になります。

霊を呼び寄せるなんて怖い、うさんくさい、科学的根拠なんてない、のだから、考えられない、と思っている人も多いのではないのでしょうか。しかし、イタコには霊的な力を持つとされる人もいますが、最近では、実際の口寄せは、「占い」や心理カウンセラー的な面も大きいとされています。

事故死や自殺、また幼い子どもを亡くしたなど、思いを聞く間もなく亡くなった肉親がいる人にとって、その突然の別れはなかなか受け入れられるものではありません。そのような状況のときイタコの口寄せによって亡くなった人との再会や繋がりを強く求め、イタコを通しての交流によって心の整理がつき、ようやく死を受け入れられ、それが“癒やし”となるのです。

また、今日、ストレスにより心身ともに疲れ、その影響で体調を崩すなど、多くの方が人生に悩んでいるかと思います。イタコにより心の奥底の悩みを打ち明けることができただけで自分の現実に気づき、ストレスから解放されることもあるといいます。

さて、「イタコ」について少し触れてきましたが、もっと知りたい方に「最後のイタコ」(扶桑社 2013/7/22)をご紹介します。自分の数奇な半生と、知られざる“イタコの世界”を描いた「最後のイタコ」の著者である松田広子さんは、現役かつ最年少のイタコです。小さな頃は身体が弱かった彼女が、どのような思いで青春時代を過ごし、そしてイタコを目指したのか。そしてイタコの歴史、イタコの持つ意味や役割が読みやすいテンポで書かれていますので、ぜひご一読ください。

【紹介された本】

『最後のイタコ』 松田広子著 扶桑社 2013. 7

※現在当館に所蔵はありませんので、最寄りの公共図書館等をご利用下さい。